

2019年（平成31・令和元年） 研究業績

寄付講座・共同研究講座名： 居住環境神経生理学研究講座

研究代表者名： 小林 弘幸

設置の背景・概要 等	
<p>現代社会は、ストレス社会とも言われ多くの人々がストレスを抱えている。ストレスの軽減は非常に重要であり、大きな社会的課題のひとつである。本研究講座では、居住環境がストレスに与える影響について、医学・生理学、ならびに工学・建築学の両面から総合的に研究し、ストレス軽減に必要な居住環境的条件とその生理学的メカニズムを明らかにすること、その成果を踏まえた最適な居住環境を提案し、それらがストレス軽減社会の実現に資することを目的とする。</p>	

区分	番号	学位論文	全著者名,論文名,掲載誌名, 掲載年 ; 巻 (号) : ページ番号	国際共同
英文原著	1		Role of bitter taste receptors in regulating gastric accommodation I guinea pigs. Harada Y, Koseki J, Sekine H, Fujitsuka N, Kobayashi H. J pharmacol Exp Ther 2019; 369: 466-472	
英文原著	2		Bioinformatic evidences and analysis of putative biomarkers in pancreatic ductal adenocarcinoma. Gu Y, Feng Q, Liu H, Zhou Q, Hu A, Yamaguchi T, Xia S, Kobayashi H Heliyon 2019; 5: e02378	
区分	番号		発表者名,発表タイトル (題目・演題・課題等) ,学会名,場所,発表年月日等	国際共同
国内学会発表	1		Naoko Negishi, 「Tolerant status of T cells via TIGIT-CD155 axis is transferable in vivo」, 第48回日本免疫学会学術集会 2019年12月 (浜松)	
国内学会発表	2		滝澤 勇輝、山川 博彰、山口 琢児、胡 愛玲、小林 弘幸「エアコンの冷房の使用の有無が自律神経機能・ストレスマーカー・気分に与える影響に関する検証」第35回 日本ストレス学会学術総会 2019年10月 (福岡)	
国内学会発表	3		山川 博彰、滝澤 勇輝、山口 琢児、胡 愛玲、小林 弘幸「冷えに関する体質と暖房方式の違いによる拇趾の表面温度・血流量変動の違いに関する研究」2019年度日本建築学会大会 (北陸) 2019年9月 (金沢)	
国内学会発表	4		根岸 尚子「TIGIT->CD155 シグナルを介して伝承される T 細胞の抑制機能は生体内でも誘導される」第34回自己免疫研究会 2019年7月 (東京)	
国内学会発表	5		根岸 尚子「免疫寛容を伝達する分子機構-CD4+T細胞の抑制機能の伝承はTIGIT→CD155経路を介する-」第29回 Kyoto T Cell Conference 2019年6月 (京都)	